

NEWS

Niigata University of Health and Welfare
Teaching Career Support Center

LETTER

CONTENTS

1. 巻頭言
2. ご退任された先生方からのメッセージ
3. 教職課程 担当教職員
4. 新任教員インタビュー
5. お知らせ
6. あとがき



デジタルで身体感覚は磨けるのか？

針谷 美智子（健康スポーツ学科）



今や、学校教育の現場でICT機器を活用することは日常の風景となりました。新潟市においても、児童生徒は1人1台のタブレット端末を手にし、さまざまな学習活動の中で活用しています。体育授業においても例外ではなく、タブレットの活用は、運動の質を向上させるための強力な武器となっています。

体育、特に器械運動では、自分が実施した動きを正確に把握することは難しいです。「逆さまになる」「回転する」といった動作の中で、今、どのような姿勢になっているのか、タイミングが合っているのかを瞬時に理解することは簡単ではありません。このような時、タブレット端末を活用すると自分の動きを映像として客観的に確認することが可能になります。言語化しにくい動きのポイントを視覚的に捉え、改善のヒントを得る。この即時的なフィードバックは、技能習得において極めて大きな利点です。

「撮影」がゴールになっていないか？

しかし、ICTの導入が進んだ今だからこそ、改めて考える必要があります。便利さの裏には、注意すべき落とし穴も存在しているからです。

第一に、試行する時間の減少です。タブレットを操作し、映像を確認する時間が増えることは、裏を返せば、実際に体を動かして試す、修正するという身体を動かす時間を削ることにつながります。

第二に、身体感覚の希薄化です。動画という視覚情報に頼りず

ぎると、「今のはグッと力を入れられたな」「今は足を伸ばす意識があったぞ」といった、自分の感覚に意識が向きにくくなります。体育の本質は、頭で理解するだけでなく、自分の身体を思うように操作できる能力を養うことにあります。身体を通した気づきがおろそかになっては、体育本来のねらいから遠ざかってしまいます。

「ない」からこそ生まれる学び

体育研究校では、あえてICT機器を一切使わない授業も行われています。そこでは、友達の動きをじっくりと観察し、自分の言葉でアドバイスをし合う場面が頻繁に見られます。「もう少しこうするといいよ」「今の動きは良かったね」「次はここに気をつけるから、見ていてね」といった対話。これは、動画には映らない、他者との関わりの中でしか生まれない学びです。

ICTはあくまでも、子どもたちの学びを深めるための補助的な材料です。ICTがあるからこそ広がる視点、ICTがあるからこそ見落とすしてしまう臨場感を持った身体感覚。その両面を深く理解し、何のためにそれを使うのかという目的を常に問い続けることが、これからの体育教育に求められているのではないのでしょうか。

皆さんは、動画の記録と自分自身の感覚、どちらを大切にさせていただきますか？

ご退任された先生方からのメッセージ



久保 晃（健康スポーツ学科 准教授）



教員を目指す皆さんへ

「何かを始めることは怖いことではない。怖いのは、何も始めないことだ。」アメリカのバスケットボール選手で、NBAファイナルのMVPを6度受賞するなど、その実績からバスケットボール界の神様と称されるマイケル・ジョーダンさんの言葉です。教員を目指す皆さん、さあ始めましょう!! まずは、「学習支援ボランティア」から

小林 房代（看護学科 准教授）



目標に向かって努力を重ねる皆さんの姿はとても頼もしく、いつも心から応援していました。

皆さんの夢が実現し、教育の現場で活躍される日を、心より楽しみにしています。

森 光雄（教職支援センター非常勤講師）



心身ともに大きく成長する時期にある子どもたち、無限の可能性を秘めている子どもたちにあなたは先生としてどのように関わり、何を教えますか。大きな責任とやりがいがある教員という仕事に一人でも多くの学生が就けることを願っています。11年という長い間、お世話になりました。ありがとうございました。

教職課程 担当教職員

脇野 哲郎	（健康スポーツ学科 教授/教職課程長/教職支援センター長）
片山 直幸	（健康栄養学科 助教）
大浦 拓徳	（健康栄養学科 助手）
吉田 重和	（健康スポーツ学科 教授）
杉崎 弘周	（健康スポーツ学科 教授）
堀 里也	（健康スポーツ学科 准教授）
佐藤 裕紀	（健康スポーツ学科 講師）
針谷 美智子	（健康スポーツ学科 講師）
柿原 豪	（健康スポーツ学科 講師）
小池 大輔	（健康スポーツ学科 講師）
五十嵐 健一	（健康スポーツ学科 助教） NEW
丸山 幸恵	（看護学科 准教授）
佐々木 緩乃	（看護学科 助手） NEW
森泉 哲也	（教職支援センター非常勤講師）
逢坂 健太郎	（教職支援センター非常勤講師）
戸川 美子	（教職支援センター非常勤講師）
阿部 潤	（教職支援センター非常勤講師） NEW
菅原 直実	（学務部教務課/教職支援センター）
井村 美園	（学務部教務課/教職支援センター）

※2026年4月現在

新任教員インタビュー

今年度、本学教職支援センターに新しくお迎えした3名の先生方にインタビューしました。
教職を目指す学生の皆さんは、先生方とかかわる機会が多くあると思います。ぜひご一読ください。

いがらし けんいち
五十嵐 健一 先生 健康スポーツ学科

①趣味・特技

中学生から社会人まで、長くソフトテニスを続けてきました。部活動や社会人チームで活動し、仲間と協力して一つの目標に向かう楽しさを感じてきました。最近は子どもが生まれ、なかなかプレーする時間が取れていませんが、今でも大好きなスポーツです。体を動かすことが好きで、学生の皆さんにも、勉強だけでなく夢中になれることを大切にしてほしいと思っています。

②学生時代の思い出

大学時代はバンドサークルに所属し、ドラムを担当していました。決して上手ではありませんでしたが、仲間と音楽を合わ

せる時間はとても楽しく、今でも良い思い出です。特に好きだったのは、BUMP OF CHICKENやGLAYの曲で、サークル仲間と演奏したことをよく覚えています。大学時代は、人との出会いや好きなことに打ち込む経験が、自分を成長させてくれる大切な時間だったと感じています。

③学生に読んでほしい作品

学生の皆さんには、喜多川泰さんの作品をおすすめしたいです。物語として読みやすいだけでなく、「挑戦すること」や「人との出会いの大切さ」について考えさせられる作品が多くあります。大学生活では、将来への不安や悩みを感じることもありますが、本との出会いが背中を押してくれることがあります。忙しい毎日の中でも、ぜひ読書を通して、自分の考え方や価値観を広げてほしいと思います。

おすすめ:「ライフトラベラー」「君と会えたから」

④教職課程の学生へのメッセージ

教職は、本当に素敵な職業だと思います。特に小学校で6年生を担当し、子どもたちを卒業させたときの感覚は、他ではなかなか味わえません。子どもたちの成長を見届けた瞬間は、「大切なプレゼント」をもたらしたような気持ちになります。私は16年間の教員生活で、5回6年生の担任をしましたが、どの学年も忘れられない思い出です。ぜひ皆さんにも、子どもたちと共に成長できる教職の魅力を感じてほしいと思います。

さきき ひろの
佐々木 緩乃 先生 看護学科

①趣味・特技

趣味・特技は、実は毎回答えるのに悩む質問です(笑)。強いて挙げると、車いすバスケットボールでしょうか。小・中・高ではバスケットボールをしていて、大学から車いすバスケットボールを始めました。今は競技から離れていますが、「3Pシュートならまだ届くかも」と密かに思っています。

②学生時代の思い出

学生時代に特に印象に残っているのは、ボランティア活動です。部活動の合間に学校ボランティアへ参加したり、東日本

大震災後は仮設住宅での健康診断をお手伝いしたりしました。「やってみたい」と思ったことには、思い切って飛び込んできた気がします。そこで出会った人や経験が、今の研究やキャリアにつながっています。ぜひみなさんも、小さな一歩を大切にしてください。

③学生に読んでほしい作品

東ティモールをテーマにした作品を2つ紹介します。『Balibo』は、東ティモール独立前のインドネシア侵攻下で、現地取材にいた記者5名が命を落とした「バリボ事件」を描いた作品です。『カンタ!ティモール』は、独立後を生きた東ティモールの人々の暮らしや想いを追ったドキュメンタリーです。世界情勢が不安定な今だからこそ、作品を通して「平和

とは何か」「そこで暮らす人々が何を感じているのか」を考えるきっかけにしてもらえたらと思います。

④教職課程の学生へのメッセージ

私は教職課程で養護教諭免許を取得しましたが、教職の道には進みませんでした。それでも、教職課程で学んだことは今のキャリアにしっかり生きています。みなさんが今取り組んでいる学びや経験も、きっと将来の力になります。興味を持ったことには、ぜひ挑戦してみてください。その一歩が、未来の選択肢や視野を大きく広げてくれるはずです。

あべ じゅん
阿部 潤 先生 教職支援センター非常勤講師

①趣味・特技

読書と映画です。読書は、好きな作家は全作品読破を目指し、あとは新聞や雑誌の書評欄を読んで面白そうな作品を選んでみます。映画は、動画配信サービスを利用して点数の高い作品を観ています。以前は、一度読んだ(観た)作品をまた読んで(観て)しまい、途中で「ん? これ2度目」と気付く有り様…。でも今は、記録ができる携帯アプリがあるのでとても助かっています。

②学生時代の思い出

中・高・大とバスケットボール三昧でした。憧れのインカレ出場を決めた瞬間は、今でも鮮明に覚えています。また、大

学は別々でしたが、医療福祉大男子バスケット部の若月前監督や開志国際高校の富樫監督たちと寄せ集めチームで大会に参加したことがあります。高校時代にどうしても勝てなかった社会人チームに、割と危なげなく勝つときは、素直に成長を感じました。でもホントは周りのおかげ? それとも相手の不調? だったのかも。

③学生に読んでほしい作品

学生気分満喫…①「横道世之介」(シリーズ3部作) 吉田修一。②「砂漠」伊坂幸太郎。③「いつまでも白い羽根」藤岡陽子。思いがけず引き込まれる…①「最後の山」石川直樹。②「なぜあの人と分かり合えないのか」中村隆文。③「潤日(ルンリー)」日本へ脱出する中国人富裕層を追う 舩友雄大。④

「町の本屋はいかにしてつぶれてきたか」飯田一史。⑤「絵の中のモノ語り」中野京子。

④教職課程の学生へのメッセージ

教職に就くまでには、もちろん教職に就いたあとにも知識やスキルは絶えずアップデートしていく必要があります。これはどんな職種に就いたとしても、これからの時代を生き抜くために求められること。それはさておき、とにかく「今」を大切に生きていこう。「今、大好きなことに夢中になること」「とことん打ち込むこと」。それが今後の自分にとって大きな大きな財産になると思います。がんばれ学生! 楽しい学生!



お知らせ

▶教職担当教員による教員採用試験対策 学内講座

4月～7月にかけ、各種講座を開講中です。4年生を中心に積極的にご参加ください。3年生以下も歓迎します。

曜日	時限	講座	担当教員	備考
月	2限	直前総合演習 一教職教養&一般教養一	柿原先生	
火	1限	直前総合演習 一教採対策総合演習一	堀先生&脇野先生	
火	2・4限	直前総合演習 一面接演習一	戸川先生	
水	1限	小学校特別プログラム受講生専用講座	小池先生 他	玉川大学小特プログラム受講生対象
水	3限	直前総合演習 一中高保体総合演習一	阿部先生	健康スポーツ学科対象
木	3・4限	直前総合演習 一教育課題演習一	逢坂先生	
学科指定曜限		直前総合演習 一養護総合演習一	丸山先生	看護学科対象
学科指定曜限		直前総合演習 一栄養総合演習一	森泉先生	健康栄養学科対象

▶学習支援センターの利用について

図書館1Fラーニングコモンズ内 学習支援センターでは一般教養の勉強について相談できます。数学・化学・物理や日本語表現、お礼状の書き方の指導も行っています。お気軽にご相談ください。

あとがき

教職支援センター・ニュースレターをご覧いただきありがとうございます。
本号では、本年度新たに着任された教員3名へのインタビューに加え、このたびご退職された先生方からのメッセージも掲載しました。それぞれの経験や教育への思い、学生への温かな言葉には、多くの学びと励ましが込められています。ぜひご一読いただき、これからの学修や進路を考える機会としていただければ幸いです。

教職支援センターでは、今年度もみなさんを支える情報を発信してまいります。

(健康スポーツ学科 柿原豪)



新潟医療福祉大学

教職支援センター ニュースレター
2026年7月8日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

✉ E-mail : kyoshoku@nuhw.ac.jp

🌐 WEB : https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/



WEB

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索